

第三期 第2回 次世代リーダー養成アカデミー開講



平成25年2月15日、今期2回目の「次世代リーダー養成アカデミー」が開講した。

本アカデミーは、次世代を担う人材が、業界内外の有識者による計3回のテーマ別連続講演を通じて、同業他社の有望人材との情報共有ならびにコミュニケーションを形成し、自らのレベルアップが図れるように企画されている。また、受講者を男女同数にして、次世代リーダーとしての女性の活躍を支援する機能も併せ持っている。この事業は、JISA 人材部会・企画WG(座長:小野田祐子・TIS(株)執行役員)が、企画・運営を担当している。

今回は、一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会から細川泰秀顧問を講師に迎えた。かつて世界の上位にあった日本の一人当たりのGDPは、いまや20位台に低下し、企業収益率は諸外国に比べて格段に低い状況にあるなかで、企業は守りのIT投資に終始し、攻めのIT投資への意識が低いことを背景に、日本を再生に導くために、情報産業がなし得る改革について皆で考えようと試みたもので、26名が参加した。

はじめに細川氏は、「日本と企業のイノベーション」と題して講演し、日本の復興のためには、企業の収益率強化が必要であり、企業改革を引き出すためのITの活用や「プロダクト志向あつてのプロセス志向」による目標値を持ったPDCA管理などについて説き、受講者にITによる日本再生について考えるよう促した。



続くABCの3チームに分かれたグループ討議では、①日本の産業が復興するために、情報産業が支援できることは何か、②日本の情報産業が今の収益の2倍稼ぐには何をすべきか、を論点として、各グループで1時間ほど各自が意見を出し合いながら話し合い、最後に結果が発表された。



講評で細川氏は、開発プロジェクトにおける生産性や業務品質を高めるために、「顕在化した問題のみならず、潜在的な問題を感知する力を高め、洗い出した問題のなかから、意識化して課題として取り組むものを明確化することが重要である。そして、その課題を解決に導くよう、具体的な解決や対応のための行動計画に落とし込むプロセスを定期的に繰り返して発想力を養い、問題発見力と問題解決力を磨かなければならない」と述べ、さらに、「これからは、『顧客第一主義』を唱えるだけの精神論ではなく、戦略や戦術を採用するかどうかの意思決定の基準を顧客側に置いた『顧客中心主義』でなければ競争に勝てない」と続けて、次世代リーダーにエールを送った。

終了後には懇親会が開かれ、受講者各自が自分の能力を2倍に引き上げるために今努力していることを紹介するなどして、和やかな雰囲気の中での散会となった。

次回最終回は、平成25年3月15日に、東京海上日動システムズ(株)の横塚社長を講師に迎え、「日本の情報化は遅れている ～このままでいいのか」をテーマに開講する予定である。

(薦田)